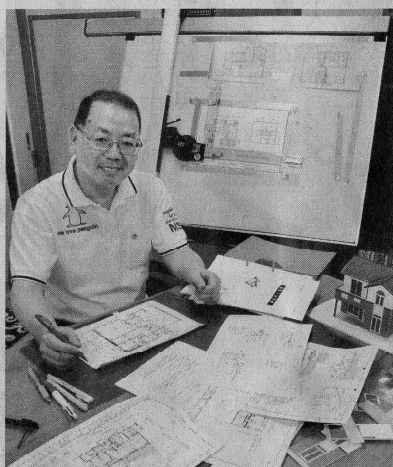


マイホーム 施工前に診断

元教諭の1級建築士が開始 都城

マイホーム建築時の不安を少しでも解消して——。都城市の元工業高教諭で、1級建築士の梶元博文さん(61)が、第三者の立場から設計段階の間取りなどを「診断」するセカンドオピニオンサービスを始めた。県内外から依頼や問い合わせが寄せられているという。

(阪東峻一)



新築住宅の間取りなどを診断するサービスを始めた梶元さん

梶元さんは県内の工業高校の建築科教諭として35年間勤務し、昨年3月、県立宮崎工業高副校長で定年退職した。学校で住宅の設計や製図の添削、指導を行ってきた経験やノウハウを生かそうと、「ハウス設計」を昨年10月設立した。「マイホームは一生に一度の高価な買い物なのに、診断」を思いついた。

間取りなどセカンドオピニオン

施工プランが固まってしまうと変更できなくなるケースもあるため、契約前に平面図や間取り図が業者から渡された時点での相談を勧めている。

建物の配置や耐震性、室内の通風、日照、収納など約50項目をA～Dの4段階で評価する。良かった点や気になる点、改善すべき点などをまとめ、相談者に報告。リフォームも対象にしている。

これまでに県内や福岡県などから約30件の相談や診断依頼があり、「工務店にしっかり希望を伝えて不安が解消された」「説明が分かりやすかった」といった声が寄せられたという。

梶元さんによると、全国で同様のサービスを手がける会社はあるが、九州では珍しいという。料金は診断内容によって異なり、3000～8500円。問い合わせはハウス設計(0986・77・2147)へ。